
とある紅蘭の娯楽小説(entertainment° °))

紅蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある紅蘭の娯楽小説 (entertainment。)

【著者名】

N7231Q

【作者名】

紅蘭

【あらすじ】

パターン・アゴー猪木です!! 必ず注意書を読み、その上で小説を閲覧しましょうね キラッ

注意書

ども、紅蘭です。

ます始めに一つ……すんませんしたあ！――

……ああ！？」「つてなるのはわかります！」

「字数少ないしもうちょい練るか……」とがストーリーとがキャラ

たんす！（；；）

ハアハア……シツレイ、取り乱シまみタ。

今小説は作者の完全な息抜き用小説であり、独善的であり、独裁的であり、独吟的な小説です。

す。只今書類の提出をうながすのである。

それでもいいなら読むがいいさつ。(。) 何様W

草も生やすし顔文字もA Aも使います。

下手すりや一話が1000文字程度です。

気まぐれで削除するかもしません。

日本形式で対話のみ描写にして一話なんて当たり前です。この小説の中ではねっ！――

苦情は受け付け無いぜベイビー……忠告はしたハズだ……。

んじや、作者の血^{ハチヤ}満で支離滅裂な霸茶夢茶^{ハチャメチャ}すぎる話すたーとっ

!!

注意書（後書き）

次話 が あらわれた！
どうしますか？

たたかう

魔法

焼き払う

作者を殴る

ソックと画面を閲じて明日を見つめる

ひひひひひひひひ、 もんばつとうないつ！—

読む　?む　黄泉む　ナパーム

まおひ「ああ どれかを えらぶのだ ゆいこやよー。」

かわいいー！（前書き）

モノの30分で書き上げてしまった……なんだかの書きやつも△

かずらじー！

紅蘭「かずらじー。」

佐天「かずらじー。」

和磨「かずらじ……」

「 「 「 かずらじー。」 「 」

紅蘭「はい、始まりましたよ。第一回のお時間です。かずらじ」

和磨「とりあえず、紅蘭。」の茶番がなんなのかを説明してもらおうか……」

紅蘭「はいな、涙子ちやーん。」

佐天「はいはーーー」の企画はですねー、とある科学の超電磁砲一次創作小説『とある科学の共鳴波動』の主人公、『下貴和磨』のラジオという体で進める、作者の思い付きだそうですね。」

紅蘭「ちょ w 最後の方いろいろ w w w スタッフもなんことまでカンペに書くなバーロー w」

和磨「まあ企画についてはわかつたが、一体何をするんだ？」

紅蘭「それについてなんだけどー、やっぱラジオと銘打つたからにはさ、ゲストとか呼んじゃつたりして?色々ダベつたり読者様から

の質問に答えたつしょうかなーと。」

佐天「でも、紅蘭さん。ラジオって初回はゲストいませんよね？ 読者さんの質問って言つても今までのは感想への返信で答えちゃつてるし。」

紅蘭「はいな、いいとこに気がついたね。

涙子ちゃんの言つ通り、今回はゲストはいませんし、質問もありませーん。

まあゲストについては作者権限と言つある意味世界の強制力で無理やり召喚してもいいんだけど……」

和磨「だけど？」

紅蘭「やつぱラジオって言つたからこなまりラジオっぽくいきたい！！」

和磨「ただのアホか…… それも末期の。」

佐天「言いますねー、和磨さん。」

和磨「そういうキャラとして作ったのは紅蘭自身だろ？」

紅蘭「まあそうなんだけどねー。」

和磨「まったく…… では、とりあえず企画の方行つてみよつか。」

紅蘭「ノリノリやんけ。」

和磨「やかましい。」

「「紅蘭の、『バラしちまえつー製作秘話…』」

紅蘭「はい、こちらはだね……初回限定の企画にしようと思つてゐるんだけど、オリキヤラのモデルや設定についての裏話をガンガンにバラしちゃおうかと…」

和磨「つてもオリキヤラなんてまだ俺と久遠くらゐしか居ないぞ？」

佐天「物語もまだ原作に沿つて展開されますしねー。」

紅蘭「多分今回限りの単発企画だからいいんだよ。気にすんなつ！」

和磨「ホントに適当な奴だな……」

紅蘭「それはむしろ褒め言葉だぜつ キラッ」

佐天「うわつ……きつしょ……」

紅蘭「ゴメンナサイ、吊ツテキマス……」

和磨「佐天に言われた瞬間心が折れたな……このままじゃ企画が進まない……佐天、その彼氏の秘蔵の工本を見つけた時のよつた絶対零度の視線をやめてやれ。」

佐天「……はーい。」

紅蘭「はつー？俺は何を！？」

和磨「ちょっとした記憶障害だ、気にするな。わかつたら早くその円く括られた縄を手放して台から降りろ。」

紅蘭「うい w」

和磨「よし、じゃあ企画の本題に入るとするか……まずは、主人公である俺の製作に関する話を聞こいつ。」

紅蘭「はいな、『共鳴波動』を書き出す前の話なんだけど、元々和磨くんは主役じゃなかつたんだな。」

佐天「えつ！？」

紅蘭「詳しく話すと本編のネタバレになっちゃうから伏せるけど、虚空爆破事件の後に展開して行く予定のオリジナルストーリーの黒幕が主人公になるはずだったんだよねー。ちなみにその設定で進めてたら和磨くんは……」

和磨「（ゴクッ）お、俺は？」

紅蘭「成す術も無くボロボロにやられちゃう死に役でしたっ w」

和磨&佐天「ぶつ！？」

紅蘭「まあ、結局はその設定の物語で進めちゃうと話の根底がダーグになっちゃってさ w 僕自身軽く鬱になるなと思ってボツつた w」

和磨「……命拾いした。」

佐天「ですね……。」

紅蘭「なつはつは、後ねー、見た目のモデルなんだけど、それは『ギャングキング』って言う俺の愛読書の主人公、ジミー君です。」

和磨「ギャングキング？」

佐天「あー、知っていますよ私。典型的なヤンキー漫画とは一線を画す新しいタイプのヤンキー漫画ですよね？」

紅蘭「ざつづらい」とー。正にその通りだよー。この現代の不良達を描いた漫画なんだけどね、近頃のヤンキー漫画に出てくる安いキャラじゃなく。本当の『漢』たちの物語だ！出でくる奴等も皆馬鹿で人間味があつてさ、何かしら共感できる所があるわけよ。しかしつ！その実彼らは自分自身の考えを持つて、確固たる意思を持つて過ごしている。まじ皆かっこよくて最高っ！」

和磨「盛り上がりがつて居る所悪いが、主題からだいぶずれてるぞ？」

紅蘭「なんだよー、いいじやんいいじやん人が楽しく話してんだからさー。」

吉野「空氣嫁」

和磨&佐天「今のは誰だつ？」

紅蘭「あー、時期に出す予定の新キャラ君だね。うん」

和磨「…………フライングじゃないのか？」

紅蘭「まあ気にするな！気にしたら負けだ！何について？人生にだ

۱۰۹

佐天一はあ……もうやだこの作者

紅蘭一也にて次行にてみゆく。

では夕遠は一にしてなんだが……」

絲鬚
大

和磨は二

卷之三

佐天・大河

紅蘭「そうだよー。久違つてのは幼馴染みが餌つてる犬の名前。ちなみにダックスフンドね。これがまた可愛いんだわー。」

和磨一久遠不憚な

「まあ確かに可哀想ではあるわ 外見はその飼い主である幼馴染みそのまんまでー」下の名前も幼馴染みの名前をまんま引用した

佐天「最低だよコイツ……」

紅蘭「なはははー」

和磨「つたく……」

佐天「あ、そういうえば和磨さんの能力について『独創的なアイディアですね』などの感想を幾つか読者さんから頂いてるんですけど、それについては？」

紅蘭「あー、それね。実は……」

モーデルがいます。」

和磨「なん……だと……」

佐天「そんな！？そんなことって！？」

紅蘭「ちょ wお前ら落ち着け w w w」

和磨「落ち着けるか馬鹿紅蘭！！元々死に役だった上に能力までパクリなんて……うう。」

佐天「ヒドいよ……ヒドすぎるよ……」

紅蘭「だから待て w 落ち着け w w w モーデルがいるとは言つたがパクリとは言つてない w」

「「一？」」

紅蘭「音を使って戦うってのには先駆者がいたが、能力については完璧なオリジナルだから安心せい w」

和磨「よ……よかつた……」

紅蘭「ちなみにモデルは『烈火の炎』って言うバトル漫画の某音使いさんですw」

吉野「風子たんハアハア（、）」

佐天「うわああああああ！－キモツ！－キモイイイイイ！－」

紅蘭「吉野落ち着け」wとりま、気になる方は烈火の炎読んでみて
ください。w能力がオリジナルなのは証明されるはずだからw

和磨一ふう……なんかアヅと疲れた……

佐天 私もです

紅蘭　おつし　まわる

和磨&佐天「お前のせいだああああああああああ！」

紅蘭「ちよつ、まつ
」……

第一回《かずらじつ》 END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7231q/>

とある紅蘭の娛樂小説(entertainment° °))

2011年10月7日02時20分発行